

「25点ラリーポイント制で勝つにはどうしたらよいか」

1999年度バレーボール学会第2回研究集会

11月21日、1999年度第2回バレーボール研究集会が福岡大学セミナーハウスにて行われた。

25点ラリーポイント制は、バレーボールの試合時間の短縮と得点形式のわかり易さを理由に、今年度から正式に採用されたルールであるが、現場で大きな波紋を呼んだルール改正である。バレーボールがどのように変わるのか、実際の試合ではどのように戦えばいいのか、暗中模索の中、多くの指導者やプレーヤーが試行錯誤しているのが現状であろう。今回の研究集会は、高校(ユース)女子、実業団女子、高校(ユース)男子、ナショナルレベルの各立場から、25点ラリーポイント制での戦い方について提言がなされた

「階段を一步踏み外してとどまると相手は先に行ってしまう。そんなラリーポイントをどうとらえていくか、招いた4名のシンポジストの方々に、話題を提供していただき考えていきたい。」という朽堀申二会長の挨拶に引き続き、4人のシンポジストによる講演が行われた。

最初に熊本信愛高校の監督であり、全日本ユース女子チームコーチでもある松本幸氏から、ユース女子チームの戦い方を振り返っての説明がなされた。

ラリーポイント制におけるサーブの工夫に関しては、「なによりもサーブに対して工夫させるようにした。8秒ある時間をうまく使い分けるようにさせ、あわてて打ってしまう傾向のある選手、長いサーブを打つ選手は、十分に時間をとって待って打たせる。また、エンドラインぎりぎりから打つ選手は早く打たせるなどの工夫である。また、ここで一点欲しいときの勝負球を持たせることも必要であろう。」と述べた。

また、ピンチサーバーの使い時に関して、「15点から17点の時点での使い時が難しい。ここが勝負どころなのか、もう一周回るのが等、次の機会を待つのかどうかの判断ができることが必要だと考えている。」と、ラリーポイント制における試合の流れを読むことの重要性について語られた。

久光製薬監督で、9人制指導者としても数々の実績を残す浜田勝彦氏は、9人制での経験もふまえて、ラリーポイント制に対する考え方や、現在行われているワールドカップにおける現状などについて説明された。

「25点ラリーポイント制では、20点までに3点離してしまえば、有利なのはたしかである。しかしながら9人制では、決勝戦レベルでも7-0、8-0なんて試合がある。では、そのまま21-13で終わるのかといえば、そうでもない。15点頃には3点差ぐらいには追いつくことが多い。逆に離れている差がつかると、勝っていても負けているような気になる。これがラリーポイントの醍醐味でもある。

点数をとられるのは当たり前。とられたらとればよいという考え方がラリーポイントの考え方であると思う。」と述べた。

鹿屋体育大女子バレー部の監督で、全日本ユース男子チームコーチでもある濱田幸二氏は、「ラリーポイント制の場合、サーブレシーブからの攻撃で必ず切っていれば、一回ないしは二回の仕掛けで勝てる。サーブで仕掛けるか、ブロックで仕掛けたい。ユース男子の場合、ブロックはリードブロックではなく、コミットブロックで勝負させた。ワンタッチをとるというレベルだと勝てないと判断したからである。サイドアウト制の場合、サーブレシーブからの攻撃を頑張ることは、負けないバレーをすることだったが、ラリーポイント制の場合、それが勝つバレーになる。」と、世界ユースにおけるデータをふまえて、あらためてサーブレシーブからの攻撃の重要性を感じたことや、試合の流れの中で、自チームのサーブからの攻撃でキーポイントとなる仕掛けの必要性等を強調された。

専修大学の吉田清司氏は、昨年の世界選手権(15点サイドアウト制)からのシュミレートと、今回のワールドカップにおける実際のデータより、以下のように説明された。

「サイドアウト制からラリーポイント制に移行して、チーム同士の力関係が変わる可能性は少ない。セットとしては逆転が起きる可能性はあるが、5セットマッチで考えた場合、ゲームの逆転

が起こる可能性は高くないと感じる。

昨年の世界選手権（サイドアウト制）の結果からは、ラリーポイントになった場合、ラリー回数、試合時間、勝ち得点、負け得点と、サイドアウト制の 55%となることが予測されたが、現在行われているワールドカップでの集計結果では、シュミレートした結果よりも、時間は長く、ラリー回数は少ない傾向にある。新ルール導入によって、これまで 15-10 で決着がつけられていたゲームが、9-5 の時点で終了する目安である。チームにとっては、これまでよりもスピードアップした試合展開が要求される。」

資料提供：[CPV\(コーチング&プレイング・バレーボール\)](#)

文責：後藤浩史(愛産大)